グローバル・パートナーシップの展開
－鳴門市第二中学校とラグビーミドルスクールとの相互訪問を通して－

鳴門市第二中学校　教諭　**高　木　悦　子**

(1)　ラグビーミドルスクールの概要

6年生、7年生、8年生の3学年の生徒が在籍し、生徒数807名、教職員数83名。住所は、3555 Haywood Road Hendersonville, NC 28791で、ノースカロライナの州都ラレーから車で約5時間くらい西に位置する。木々の多い自然に恵まれた地域にある。校長先生はMr. Hank Utz, 教頭先生はMs. Lisa AndersonとMr. Jeff Treadwayの二人である。学校のマスコットはRaidersで、スクールモットーは、"EXPERIENCE THE EXCELLENCE" である。学校の色は赤、白、青である。

(2)　ラグビーミドルスクールでの授業参観

見学の時間数は少なかったかもしれないが、かなり内容の濃いものだったと思う。

3月27日。 8時から10時頃まで、クリスティ先生と学校の施設を見てまわる。クリスティ先生の教室はトレーラーハウス。かなりの数のこういう教室があった。今ではそれが多くなりすぎて、新校舎建設の計画はないそうである。トレーラーハウスの教室のイメージは悪そうだが、冷暖房完備、パソコンや教育機器など校舎内の教室とあまり変わりない。見学したのは、まずダンシングクラス。しかし、ステップを踏むにはトレーラーハウスの中では少々きつそうだった。Science, Workshop（木工）, Math, Readingのクラスと見学していった。このReadingのクラスでは、学校の図書室から自分のレベルや興味にあったAR books (Accelerated Reader books) を選ぶ。この本はその番号を打ち込むと、コンピューターを使って、読解力や理解度を確認するための10問クイズができ、実際に生徒がそれを行っていた。障害児学級は各学年1クラスずつある。車椅子の生徒もいるので、エレベーターも設置されている。バリアフリーの精神だ。PE（体育）のクラスでは運動しやすい身軽な服装で同じ体操服で活動しない。Home Economic（家庭科）のクラスではどのようにお金を得るかということをテーマに学習していた。料理などもするらしい。Musicのクラスでは、本格的な演奏をしており、トランペットなどは生徒個人のものだそうだ。日本の公立中学校なら、ソプラノとアルトの縦笛くらいのものだが。Science のクラスでは、生徒はディスカッションしており、その教室にはこのような目標が書かれてあった。You are resposible for your own actions. Your "I will" is more important than your IQ. 日本でもよく言われる言葉だ。しかしそれを教室に貼っているということは、日本よりもはるかに生徒に対して厳しいのかもしれない。ISS (In School Suspension) のクラスを見学した。担当は校長先生の奥さんである。行動が悪かったり、宿題をしなかったり、喫煙したり、けんかをしたりすると、このクラスで2～3日過ごすらしい。BED (Behavior Education Development) のクラスは、授業妨害をした時、ここへ来るらしい。髪の毛を青く染め、目つきも鋭い生徒がいた。ボディガードが常時控えている。OSS (Out of School Suspension) のクラスでは、5回ISSに行ったり、麻薬を使用したりした場合、このクラスへ来る。ここでも改善できない場合、この学校の替わりにTuxedo Middle Schoolへ行くらしい。Academy Gifted Class（いわゆる優秀クラス）も見学した。国語と数学で行う。クラス人数は少人数制で6人くらいまで。各学年では27人くらいいる。他の教科は他のみんなと授業を受ける。選抜方法は、テストの結果、教師の評価、生徒の作品、IQなど。

逆に、学習の進度が遅れがちな生徒に対しては、tutoring（放課後の補習のようなもの）がされている。教科によって曜日がちがう。スペイン出身の生徒が（その日は3人）いる。この生徒のために英語のクラスもあった。見学はしなかったが、授業の方法は私たちが第二外国語を指導する方法と似ているようだった。この校区に住む生徒がみんなこの学校へ入学してくる。障害を持った生徒も生徒指導が非常に必要な生徒も。それに対応していろいろなクラスやカリキュラムが用意されている。生徒の学ぶ権利をしっかり公平に守り、個人の才能を最大限伸ばせるよう教師が取り組んでいるし、そういう体制が整っていると思った。

3月30日は優秀クラスと障害児学級の見学をした。1時間目（Academy Advanced Class, Mrs. Carterの国語のクラス、8年生、25人）カーター先生が用事のため、レイモンズ先生に変わる。授業の前には、校長先生の合図で右手を左胸の上にあて、国旗に向かって誓約の言葉を言う。全部の授業でしているわけではないそうだ。

このクラスの生徒に授業の前に聞いたのだが、通常クラスの友達にこのクラスに来ることに対して悪く言われることはないそうだ。勉強ができるできないも単なる個性だから。このクラスへ来ることは、すばらしいことだと思うし親も誇りに思っているそうだ。このクラスでは、読みとりした後で、Q and Aをしていた。生徒は足を組んだり、姿勢は正しくないが、答えるところでは挙手をし、発表もよくする。しかし全く手を挙げない生徒もいた。後で聞いた話によると、このクラスにもレベルに差はある。このクラスの掲示には、こういう物があった。Treat your brain to a book. You are responsible for you. Reading makes life a lot easier.

2時間目、Autistic（自閉症）の生徒のクラスへ見学に行く。8時45分～9時30分。生徒は5人。教師は2名。このヘンダーソンビル郡内には日本の特殊諸学校といったものはない。この地域に住む子供はみんなこのミドルスクールへ入学する。また、このクラスへ他のクラスの生徒が遊びに来ることがあるそうだ。障害を持つ子供も健康な子供も同じ場所で学習することを通してお互いに学びあえることがあると思う。スケジュールは生徒一人一人の障害の程度に応じて一日の計画が立てられている。しかし、時によっては子供の状況で柔軟に変えていく。評価に関してはポートフォリオでされており、Communication,Career Vocational, Community, Personal/Home Managementの4つの領域で構成されていた。教室内は、一人一人のスペースが確保されており、快適に過ごせるように考えられている。また、調理のスペースや集中力を保つための設備（ヘッドホンで音楽を聴く、物語を聞くなど）が充実している。本当に生徒一人一人がとても大切にされているなあと思った。

(3) ラグビーミドルスクールでの授業実践

授業実践に関しては渡米する前になるべく沢山の授業をさせてほしいと言うことを伝えていた。それは、沢山の生徒と交流を通し、生徒たちを知りたいと思ったからだ。また、今後交流を続けていく上で、異文化理解の大切さを痛感していたからだ。確かに授業を沢山行うということはハードではあったし、年度末の3月という時期的なものを考えても授業をさせていただいた先生方には大変迷惑をかけたと思うが、直接子供たちと触れ合い、心を開いて話ができたことは私の宝物になった。また、授業を実践したからこそ発見したり、学ぶこともたくさんあったと思う。

3月27日。11時30分から12時までMs. Canipeの社会の授業。校舎内の教室。前もって日本の挨拶の仕方を先生が指導してくれていて、オーバーヘッドプロジェクトを使って、挨拶を日本語でしてくれた。ビデオ上映（約20分）の後、生徒から質問の時間をとる。

12時から1時までMr. Pierceの社会の授業。トレーラーハウスの教室。2コマある。ここでも日本から持っていったビデオを上映し、生徒からの質問に答える。ここで驚いたのはこのピアス先生は、70歳。彼の奥さんも60歳を越えているけれど現役で教師をしているらしい。同じ学校ではない。徳島県なら、退職年齢は60歳。ノースカロライナでは、やめるといわなければ永遠教師ができるそうである。また、夫婦揃って同じ学校に勤めるのはOKなのだそうだ。ただいろいろ問題があったりするそうだ。

今日の生徒の質問事項や私の感想は、以下である。

（質問事項）

1　日本では学校は何歳で行き始めるのか。
2　8年生は一日いくつ授業があるのか。
3　学校は何時から何時までか。
4　秋祭りは大好きか。
5　好きなスポーツは何か。
6　自動車は日本のものと違うか。
7　学校は年間何日あるか。
8　制服を着るのか。
9　塾はあるか。
10　マイノリティはいるか。
11　日本へ行くのにビザはいるか。
12　土曜日は学校があるのか。
13　バレーボールは好きか。
14　鳴門は大きい街か。

15　教師になってからどれくらいたつのか。
16　フットボールやレスリングの部活はあるか。
17　学校の一日はどのようか。
18　コンピューターを使うか。
19　女子はみんな短いヘアースタイルか。
20　アメリカの大統領の選挙をどう思うか。
21　なぜ二中の生徒は部活動をしなければならないのか。
22　日本の生徒は北アメリカのことを勉強するか。
23　一つのクラスには何人生徒がいるのか。
24　人気のある音楽は。アメリカと同じなのか。
25　何を教えているのか。
26　問題行動をする生徒はいるか。
27　校長先生はいるのか。
28　校区はどれくらいか。
29　生徒は教科書を教室から教室へ持っていくのか。
30　バスケットボールの試合を他の学校とするのか。
31　マクドナルドで箸は使うか。
32　生徒は何人いるか。
33　生徒は自分の授業を選ぶか。
34　生徒は昼食にお弁当を持ってくるか。
35　一週間に何日学校があるか。

3月28日。 1時間目、ローラ先生の6年生の美術のクラス。校舎内の教室。8時10分～8時55分。二中の学校生活や学校周辺の風景と日本の年中行事を撮ったビデオを放映し、説明を加えていく。また、日本の文化についての写真や小中学生に人気のある雑誌やマンガ、日本の新聞や広告を見せる。その後質疑応答の時間をとる。

2時間目、ローラ先生の7年生の美術のクラス。9時15分から10時。ローラ先生が出席をとった後、この学年は昨日の他の教科でビデオを視聴していたため、習字のデモンストレーションを行う。生徒たちは自分の名前を日本語で書いてほしがっていた。書いてもらうと表記方法の違いに感激していた。

3時間目、ローラ先生の7年生の美術のクラス。10時5分から10時50分。この生徒たちはすでにビデオのほとんどを観ていたので、日本の年中行事の部分だけ観た。桃の節句の部分では、私が早く片づけないと婚期がおそくなると言われていると説明した。こんな言い伝えは根拠のないことが多いが、アメリカにも同じような言い伝えがあるそうだ。梯子の下を通るとだめ。鏡が割れると50年良くないことがおこる。黒猫を見ると良くない。靴の中に6ペンスいれると結婚できる。表向きの1ペニーを拾うとラッキーで、裏だとだめなど。

昼食時にMr. Pierceが自分の他のクラスにも来てほしいと言うことで、（予定外に）ローラ先生に交渉にやって来た。彼女の授業の間に少しだけ行くことになる。彼は日本に来たこともあり、日本に興味がある。初めて会って握手したときも自分の手の中に石ころを入れていた。話を聞くと東京帝国ホテルの建て替えの時に転がっていた石を拾ってきたのだという。おもしろい出会いだった。そんな彼が私に "This is Japan." ということを話してほしいという。そんな突然言われたってという感じだが、制服のことを話した。日本の制服事情も変わってきているということ、この学校の生徒は自分の個性や考えを自由服で表すことができるからいいということなど。

4時間目、ローラ先生の8年生の美術のクラス。12時から12時50分。出席をとる。遅れたら、生徒自身がシートに名前を書いている。これは、Tardy Sheetといわれ、居残りになって、掃除をするか宿題を科せられるそうだ。またこのシートは家庭へお知らせとして渡される。その上にPassといわれる4色のカードもある。これは授業中に教室から出るための許可証のようなもの。Restroom pass, Office pass, Hall pass, Telephone passがある。授業内容はビデオや雑誌、写真を見て質疑応答と習字のデモンストレーション（生徒が希望した日本語や生徒の名前を書く）と生徒が習字を体験する。また、二中の保健室の様子をビデオで見ているときに分かったことだが、ラグビーミドルスクールには、Infirmeryといわれる保健室のようなものはなく、School nurseが週1回くるそうだ。高校には、常時1人いるそうだ。

5時間目、ローラ先生の8年生の美術のクラス。12時55分から1時40分。出席をとる。授業の流れは、4時間目とほぼ同じ。

6時間目、ローラ先生の6年生の美術のクラス。2時から2時45分。出席をとる。授業の流れは、4時間目とほぼ同じ。習字をすると、あるいは生徒の名前をカタカナで書いたりすると "Cool!"（すごーい。）とか（自分の名前は日本語で書くとこんなに短いんだ。）とか、いろいろな感想が聞けた。また、生徒と触れあう中で今流行っている言葉も知ることができた。テレビ

のコマーシャルで "What's up?" というのがあり、日本語の山葵と発音が似ているので笑いを誘うらしい。

今日の授業での質問事項は以下の通りである。

1　500円は何ドルか。
2　フットボールのクラブはあるか。
3　（本の値段の300円を見て）この¥300は何か。
4　アメリカ人が日本へ移民したら、どんな職業につくか。どんな学校へ行くのか。
5　日本では結婚式はどのようにするのか。
6　日本のトイレの使い方はどうなのか。
7　日本人と中国人はどのように違うのか。
8　学校が終わるのは何時か。
9　雛祭りの目的は何か。
10　ローラーブレードはあるか。

3月29日。 1時間目（6年生の美術のクラス、8時10分から8時55分）と2時間目（7年生の美術のクラス、9時15分から10時）のローラ先生の授業は、昨日と同じように授業をすすめた。また、生徒の名前をカタカナで書いた。

3時間目、ローラ先生の7年生の美術のクラス。10時から10時45分。この授業を小野先生と世羅先生が見に来てくださった。授業の流れは1，2時間目と同じ。生徒の名前を漢字で書く。その後生徒全員が友という字を書いてみた。後のアンケートに日本のイメージは?の項目でこの字を書いている生徒が数名いた。やはり体験するのはインパクトがあるようだ。

4時間目（8年生の美術のクラス、12時から12時45分)、5時間目（8年生の美術のクラス、12時55分から1時40分)、6時間目（6年生の美術のクラス、2時から2時45分)も午前中とほぼ同じ流れで授業を進めた。今日の授業で生徒から聞かれた質問は、つぎのようなことである。

1　フットボールのチームはあるか。その練習試合はあるか。
2　生徒は問題を起こしたりするか。
3　修学旅行はあるのか。
4　ドラッグの問題が起こったりするか。

放課後事務室へ戻ると子供を迎えに来ている保護者に会う。子供が私の訪問で経験したことを楽しそうに必死になって家で話すそうである。子供にとってもこの経験は本当によかったと話してくれた。

3月30日。 3時間目10時から10時50分までMs. SinkのCookingクラスでお好み焼きを生徒と一緒に作る。シンク先生と前の日に必要な道具や材料について話し合っておいたので、とてもスムーズに調理できた。粉やソースなどは日本から持って行っていたので野菜や肉、エビなど生ものを買ってもらった。日本茶やお菓子の袋さえも生徒は争奪合戦をするほど日本のものに興味をもってくれた。ローラ先生やクリスティ先生も来て一緒に試食会となったが、生徒たちもおいしいと大好評だった。家でも作ってみたいのでレシピを書いてほしいという生徒も出てきた。また、新聞社の取材もあったので大盛況だった。私にとっては懐かしい味のお好み焼きが昼食だった。

4時間目クリスティ先生のLanguage Artのクラス。7年生。60分。『クリちゃん』の「もうちょっとだよ」と「これならくらいよ」のセリフを考える。後者の細長いものが花火だと分かったのは4人だった。その後、4コママンガを考え、絵も描く。名前を日本語で書いてほしいと全員の生徒がいうので筆ペンで書いた。やはりみんな感激した。

5時間目クリスティ先生のLanguage Artのクラス。7年生。60分。授業の内容は4時間目と同じ。花火と分かった生徒は8人だった。

6時間目クリスティ先生のLanguage Artのクラス。7年生。60分。『クリちゃん』のセリフを考えると時間配分がうまくいかなかったので、4コママンガだけ挑戦させる。結構楽しそうに書いていた。生徒の名前をカタカナで書いてプレゼントした。

生徒は礼儀正しくしかもすごく明るい。日本に興味を持っていて、自分のクラスにも高木に来てほしいという生徒がいたのはうれしかった。ビデオの放映で生徒の興味を引いたのは、剣道部の面うちの練習をしている風景である。みんな大笑いした。弓道に対しては、Cool! と感心した様子だった。生徒の服装が私服であるので年齢より上に見える生徒もいた。そのことについてローラ先生に聞くと、化粧やピアスはかまわないが、胸のところが開きすぎていたり、背中の見えるような服を着ている場合は、保護者に電話して着替えさせているらしい。自由服というのは厳格にするのは、難しい時があるそうだ。また、経済的に裕福でない家庭の子供は、衣服が清潔でないこともあるので、友達との関係がうまくいかないこともあるそうだ。トレーラーハウスから通学している生徒もいる。教師が授業

中水やジュースを飲んでもいいようである。授業中ミネラルウォーターを出されたが、授業中に飲むという行為に抵抗があって飲めなかった。学校に要らない物を持ってこないようにとか、授業中はものを食べたらいけないと指導している日本の教室では考えられないことである。それだけ教室は神聖な場所と考えている日本の教師がいるのか、あるいは教師はそういう行為をしても当然であって、生徒から一目おかれているアメリカの教師がいるのか。教室には、あまり窓が多くないと思った。空調設備が整っているからだろう。夏も冬も日本の子供ははるかに過酷な環境の中で学習していることになる。これは、基本にはノースカロライナでの学習する権利が保障されていることと、施設を整備することへの基本的な考え方や行政の経済的な状況の違いもあるのだろうと思う。授業中、水を生徒の前で飲むということも含めて、日本では耐えるとか我慢するというところが美徳とされている文化があることも関係があるのだろうか。

今回の私の授業実践が単なる日本の文化や二中のことをラグビーの生徒たちに伝えたことになってしまったかもしれない。しかし、交流をしている生徒同志がお互いのことをもっと知りあえる機会と今後、興味を持って交流を深める動機付けになったのではないかと思う。また、日本に興味を持った生徒も多かったので、今後自分の学習テーマにするとか、将来日本とノースカロライナの架け橋になってくれる人になるのではないだろうかと期待もしている。生徒たち、先生方、保護者の方々の笑顔の素晴らしさとと暖かさを肌で感じた4日間だった。

(4) 協力校締結とその経緯

① ラグビーミドルスクールとの交流開始について

我が校では、平成12年6月28日（水）から30日（金）までグローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクトによりラグビーミドルスクールからクリスティ・コワルスキ先生とローラ・ノリス先生をお迎えした。

クリスティ先生の専門は国語と社会であり、ローラ先生は美術であったので、主にその教科の授業の見学と講義をしていただいた。2年生の英語の授業では、ローラ先生と私とAETのアリス先生の3人でティームティーチングを行った。ノースカロライナ州やラグビーミドルスクール紹介の後に、俳句を英語で書くという活動をした。それを学校へ持って帰ってもらった。彼女は、日本での彼女の経験やその作品を使ったりして、彼女の生徒たちに日本のことを紹介したようである。また、生徒たちは、俳句を書いたようだ。

ラグビーミドルスクールの生徒たちの中から、交流希望者が沢山出てきて、その作品と手紙が9月16日に届いた。

② その後の交流について

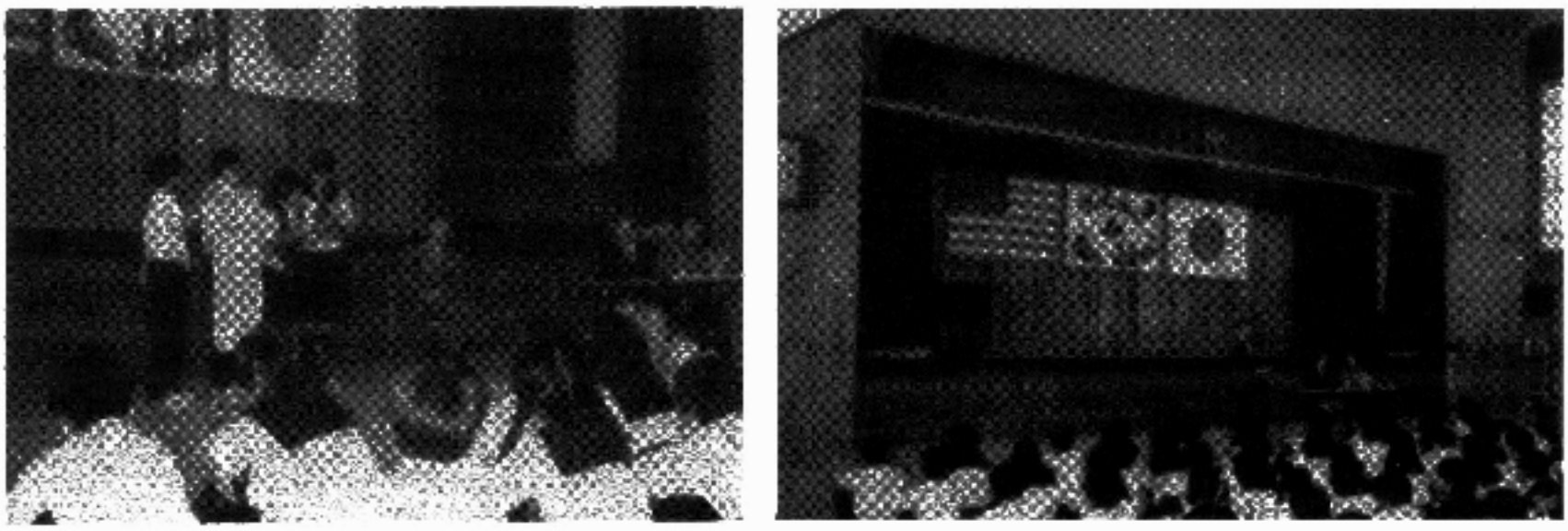
2学期から3学期にかけて、毎週火曜日の放課後に選択授業の生徒20名がメールを送ったり、チェックしたりするようになった。また3学期の選択授業はビデオレターを作り、ラグビーミドルスクールへ送るという活動をした。手紙や美術作品の交換については、約60名の生徒（主に2年生）が9月に届いた手紙の返事を書き、10月11日にラグビーミドルスクールへ送った。12月14日に手紙と沢山のプレゼントと共に大きな小包がラグビーミドルスクールから、届いた。まさにクリスマスプレゼントである。生徒たちはアメリカのにおいのするいろいろな品物に目を輝かせていた。ローラ先生は美術部の顧問もしているので、こちらの美術部とも交流をしようということになった。平成13年1月9日にラグビーミドルスクールから生徒たちの美術作品が届いた。前回のプレゼント付きの手紙を見た二中の他の生徒16名がさらに交流希望をし、2月5日にラグビーミドルスクールから16人分の手紙が届いた。2月8日に二中から、美術作品を送った。2月20日に手紙とプレゼントを添えた小包を送った。さらに私のラグビーミドルスクールでの滞在中にいくつか返事の手紙を預かった。また、ラグビーミドルスクール滞在中にアッズ校長先生に協定書締結のことをお訊きすると、前向きに考えておいでだったので、締結に向けて進めていくことになった。帰国後、ラグビーミドルスクールの様子を二中の生徒たちに知らせるように写真や絵はがき、新聞などを掲示した。

③ 国際交流に向けての学校の取り組み

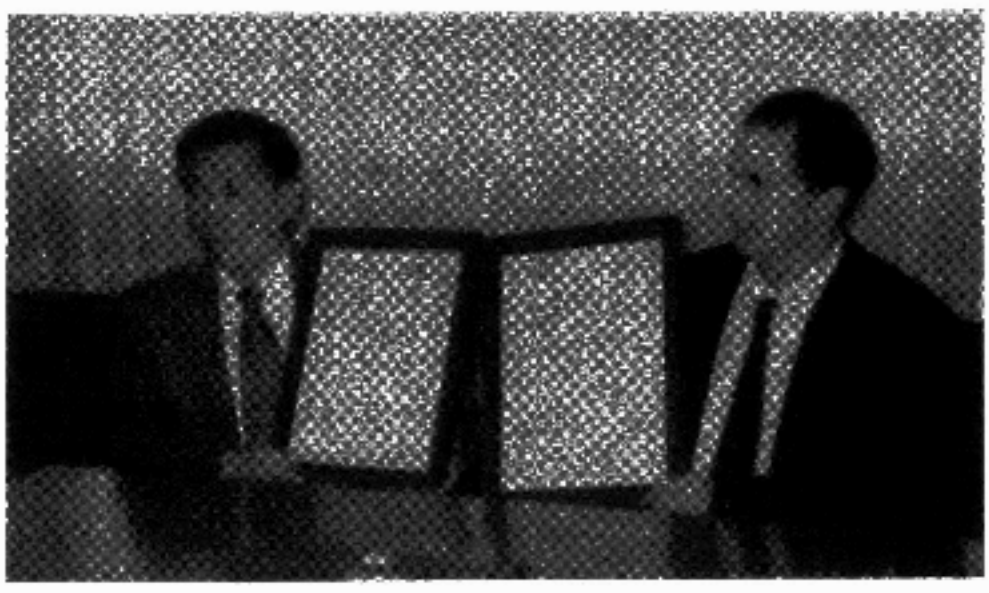
平成13年度の新学期になり、広報・JRC委員会が創設された。特にJRCでは国際親善を目的の一つとしており、この活動の中にラグビーミドルスクールとの交流を加えた。また、協定書締結について本校の教職員の共通理解を図ることができ、協定書締結を具体的に進めて行くこととなった。進め方については、以下の

通りである。６月のパーカー先生がおいでる時に全校集会を開き、その時に協定書の締結式を開く。パーカー先生が我が校へおいでる前にアッズ校長先生にサインしていただき、パーカー先生にそれを持ってきていただく。本校での締結式後、また彼に協定書をラグビーミドルスクールへ持って帰っていただく。こういう形の案に対し、本校の校長、アッズ校長先生、パーカー先生にも了承を得た。４月21日の生徒会専門委員会では、広報・JRC委員会の活動内容について説明をした。４月23日この委員会の生徒に、交流啓発のポスターを作成、掲示してもらった。また、ラグビーミドルスクールでの写真を掲示した。この呼びかけや写真でさらに交流に興味を持った生徒が１年生と２年生を合わせて、合計64名出てきた。現在ローラ先生のクラスの32人の文通相手が見つかっている。新学期にさらに募集を募ってくれる。本校の校長に確認してもらってから、５月17日に協定書案をラグビーミドルスクールにファックスで送付し、アッズ校長先生に内容を確認してもらった。５月19日の生徒会専門委員会では、委員に手紙の書き方などを書いたプリントを配布し、各クラスの交流希望者に配布、説明するように指示をした。以前送付していた協定書案は大丈夫だという返事をもらったので、５月28日に正式な協定書をラグビーミドルスクールへ送付した。５月31日の放課後にも広報・JRC委員会を開き、６月のパーカー先生の歓迎会と協定書締結式に向けての準備について話し合いを持った。その歓迎会では、各学年ごとにテーマを決め、パーカー先生に鳴門のことを紹介する活動を行うことになった。１年生は鳴門のサツマイモとそれを使った料理について、２年生は浴衣について、３年生は鳴門の特産物や観光地についてである。生徒たち自らの手で作成したものを思い出の一つとしてパーカー先生に持って帰っていただくということになった。６月２日の集会では、JRC登録式に引き続き、パーカー先生の歓迎会で使う旗づくり（ノースカロライナ州旗と鳴門の市章を描いた旗）作成への協力とその会でパーカー先生への質問事項を考えてもらうように全校生徒に呼びかけた。また、パーカー先生の来校までにパーカー先生を歓迎するポスターを広報・JRC委員が一人１枚ずつ作成し、教室や廊下に掲示した。生徒会役員は体育館に掲示する日米の国旗と歓迎の言葉を模造紙で作成した。

④　パーカー先生歓迎会と協力校締結調印式



パーカー先生歓迎会



協力校協定書

6月26日2校時、ショーン・パーカー先生をお迎えして歓迎会と協力校提携調印式を体育館で行った。全校生徒が鳴門市旗とノースカロライナ州旗を振り、アメリカ国家の演奏される中、パーカー先生が入場した。この会や式は、広報・JRC委員と生徒会が中心となって進めた。パーカー先生の紹介、パーカー先生からのお話、協定書もサイン済みのものを持ってきてくれていたので締結もスムーズに終わった。また、たくさんの報道機関の方々の取材もあり、華やかな催しとなった。また、パーカー先生は、生徒たちの発表も大変よかったと感激されていた。

パーカー先生の4日間の滞在で、彼自身が学んだことは多かったと思う。また私たち日本側の教師や生徒が彼から学んだこともたくさんある。

パーカー先生の希望でクラブのメンバー25人と交流することになった。7月23日、ラグビーミドルスクールの新年度にあわせて二中の生徒たちの手紙（2，3年生）を送った。写真や校区のケーブルテレビで放映された協力校提携調印式やパーカー先生の授業の様子のビデオも同封した。さらに二中の文通希望者は39人（1年生）いる。この中の32人は、昨年度来校したローラ先生のクラスの生徒32人とも交流する予定であり、さらに7名の文通希望者を探してもらう予定である。8月7日に手紙を郵送した。(現在交流中)

平成13年9月11日、ローラ先生のクラスの生徒から1年生あてに39通の手紙が届いた。9月29日（土）の文化祭で、広報・JRC委員会では、この交流について模造紙にまとめ掲示する活動を行った。10月30日（火）にラグビーミドルスクールへ返事を送り、12月3日（月）にその返事が届いた。12月19日（水）にクリスマスプレゼントが届く。12月20日（木）に全校生徒の前で交流の様子を紹介した。その返事とプレゼントを平成14年1月29日（火）ラグビーミドルスクールへ郵送した。今後もさらにいろいろな形で交流を進めていきたい。

(5) 今後の課題と展開について

今後の問題点としては、まず中学生が英語を媒介にコミュニケーションをはかる難しさにある。英語運用力を身につける勉強にはなるが、日本の生徒にとっては英語で手紙やメールを書くということは大変な作業であるということである。手紙やメールで交流を深める一方で、言葉を使わなくても意志疎通のできる美術作品やビデオレターなどの交換も盛んにしてもいいと思う。また、その内容に関してもお互いに理解し合うことが大切であり、実際にラグビーの生徒たちは日本や日本語に非常に興味を持っているのでより具体的な日本を紹介するビデオの作成を目的にできると思う。例えば、ひらがなやカタカナや漢字について、日本語を話すことについて、歴史的な建物について、日本の歌についてなど。また、両校が同じテーマで学習に取り組み、その成果をインターネット上で交換し合うのも一つの学習方法として可能でないだろうかと考える。次の問題点は交流の継続性である。生徒同士の個人的な交流がさらに深まるというのも交流の一つの形だと思うが、学校同志の交流を密にそして確実に交流が続くことを願うなら、生徒個人対個人ではなく、学校対学校で手紙やメール交換するほうがいいのではないかと思う。郵便局に行って手紙などを実際に航空便で送ってみるというのも必要な経験だとは思うが、生徒たちみんながそういうことができるかと言われると自身がない。やや苦手とか面倒なことに関してはやはり消極的になってしまいがちな生徒もいるはずである。～までに手紙を仕上げるといった目標や手紙の返事が返ってきたという結果が見える活動の方が生徒のやる気を引き出すことができると思う。ただこれで問題になってくるのが、費用的な面である。沢山の手紙や作品を郵送することは費用がかかるのは確かである。今後、どのような方法が一番か検討する必要がある。

今後の望まれる展開としては、この交流が今年度始まった生徒会実行委員会の活動と来年度の総合的な学習につなげることができればと考える。今までのような交流の基礎の上に可能であれば教員派遣だけでなく、生徒同士の派遣にも広がっていけばと考えている。『百聞は一見に如かず』といわれるように生徒たちは沢山のすばらしい経験をしてくるだろうと思うが、そこに至るまでのいろいろな課題もクリアしなければならないだろう。

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト
米国現地研修ジャーナル（2001年3月23日－4月5日）

鳴門市第二中学校　教諭　　高　木　悦　子

3月23日（金）　コロナホテルはどこ?

世羅先生、近森先生と鳴門地区参加者の先生方と高速鳴門13：25発の特急バスで大阪へ向かう。大阪梅田からホテルの位置が分かりにくくて困った。午後17：00より19：00まで、新大阪コロナホテルにて直前研修に参加。このプロジェクト全体の説明と直前研修やアメリカでの研修の日程の確認をする。また、参加者の自己紹介と3地区のこれまでの事前研修の紹介もあった。研修終了後は、鳴門地区の先生方としばらく食べられないであろう日本食（そば）を味わって食べた。

3月24日（土）　ノースカロライナは遠かった。私のスーツケースは何処に?

朝食とチェックアウトを済ませ、10：00から12：00まで直前研修。ジャーナルキーピングの方法と報告書の書き方の説明、今後の日米交流の促進についてや事後研修、姉妹校提携のガイドライン、ノースカロライナの教育についての話を聞く。新大阪から関空特急はるかで関西国際空港へ向かう。所要時間45分。大阪、広島地区の先生方と、関西国際空港16：25発ノースウエスト70便でデトロイトへ向かう。所要時間12時間10分。途中日付変更線を越え、14時間逆戻りする。飛行機の窓から、デトロイトの街は乾燥しているように見え、街全体や道路までもベージュ色がかっていた。乗り継ぎ時間があったので、Phone Cardで日本へ電話をかけようと試みた。何度やってもうまくいかず、近くに座っていた人に聞いても、「私も最近やっと電話のかけ方を習得したんですよ。」と言われ、よく聞くとアメリカに来て間もないドイツ出身のお兄さんだったり。何事も経験とはよくいうもので、待ち時間を上手に(?)使ってアメリカの文化の一つを知ることができたように思う。さらにアッシュビルグループは、デトロイト12：55発ノースウエスト1574便でシャーロットへ向かう。所要時間1時間44分。ここまでは無事到着したものの私のスーツケースがターンテーブルに現れない。授業に必要なもの、お土産などすべて入っていたので、目の前が真っ暗になった。ミスラゲッジを想定して、一回分くらいの着替えなどは機内持ち込みようのカバンに入れていたのが唯一の救いになった。シャーロット空港ではケーシー先生、ロイス先生、小野先生が出迎えてくれた。バンや車に分乗してWestern Carolina UniversityのあるAshevilleのCullowheeまで向かう。途中で食事などもしたので、マジソンホールには、24時過ぎて到着。私は、Hendersonville地区で研修する森先生と一緒にCullowee Valley Scool（K－8）のアン先生のお宅にホームスティすることになっていたので、彼女が迎えに来てくれていた。家の中の配置を簡単に教えてもらい、就寝。かくして、私のスーツケースが届かないという波乱に満ちた研修がスタートしたのだった。

3月25日（日）　自然がいっぱいのキャラウィー。感激した歓迎レセプション。

時差の関係で夜中の2，3時ころまで眠れない。7時頃山の中の小鳥のさえずりで目が覚めた。しかし、また眠ってしまい、アン先生の声で目が覚める。9時になっていた。スクランブルエッグとベーコンとビスケット、フルーツ、コーヒー、オレンジジュースを用意してくれていた。ノースカロライナの南部の典型的な朝食だそうだ。その上にゲストが日本人だからということでグリルした魚も用意されていた。その後アン先生のパソコンでメールを送らせてもらった。アン先生が自分の学校に用事があるというので、一緒に出かけ、校内を見せてもらった。アン先生の教室は火曜日からの第一小学校の二人のゲストのためのイベントの準備物であふれていた。午後2時すぎにアン先生にウエスタン・カロライナ・ユニバーシティまで送ってもらう。この地域の学生による絵画展を見る。3時から歓迎レセプションのために阿波踊りを練習。午後5時にマジソンホールからバンでレセプション会場に向かう。午後6時からレセプション。昨年の6月に第二中学校へおいでたクリスティ先生とローラ先生、ローラ先生のご主人のダンと会う。彼は、日本食に興味があり、週末にすしロールを作ることを約束した。クリス

ティとローラとはメールの交換でコミュニケーションをずっと取っていたが、その人自身と再会でき、話ができたことは本当にうれしかった。ボブ・メイヤーという人とも知り合いになった。ノースカロライナの小学生たちがsquare danceをし、そのステップを教えてもらった。私たちは阿波踊りを披露した。午後9時頃アン先生の家へ帰ってきた。午後10時頃、ロイス先生が私の行方不明だったスーツケースをアン先生の家まで持ってきてくれた。本当に良かった。今日はいい日だ。アン先生の家で2日間過ごす間に感じたことは、アン先生は研修に熱心に取り組み、教師という自分の仕事に誇りを持ち、そのキャリアーアップのための努力を惜しまないことである。アン先生は、アイルランド出身で高校までは地元で勉強し、イングランドの大学へ行ったそうだ。イングランドで教鞭を執る中で、ジャマイカ出身の子どもがいたそうだ。その生徒との出会いからもっとその国や教育のことを知りたくて、ジャマイカへまず行ってみたそうだ。ちょうど、ウエスタン・カロライナ・ユニバーシティの先生の中に有名なジャマイカの研究者がいたのでこのキャラウィー地域に住むことになり、さらに研究を進めたそうだ。この夏にもフルブライトでドイツへ行くらしい。

3月26日（月） Fairview School と Smoky Mountain High Schoolの訪問。

6時頃起床。服も新しいのが着られるので、気分もすごくいい。7時半にアン先生が、マジソンホールまで送っていってくれる。スーツケースを山田先生の部屋に置いてもらいＷＣＵ地区研修の先生方と一緒に大学のカフェテリアで朝食を食べる。9時頃出発。9時15分頃、Fairview Schoolに到着。Thurza McNair先生が校舎内を案内してくれる。まず、Welcome Eventsとして子供たちが "What a wonderful world" を手話で披露してくれた。一階建て茶色い建物、円形。W. C. U. の付属校である。Pre K－8。生徒数783人。部屋（Pot〔さや〕呼ばれているらしい）も円形なので、各教室は本棚などで仕切られている。各クラスの印象としては、すごくカラフルで必ずクラスの目標が貼られていた。2，3年生のクラスだったと思うが日本語で自分の名前をどのように書くのか興味を持っており、たくさんの子供たちに囲まれてしまった。保護者の学校に対して多大な協力をする。（Kinder gardenのクラスは、もともとその学年用でなかったので、狭い。そこで保護者のボランティアでロフトを作ったらしい。）施設は充実しており、computer,video,degital camera,scanerなど揃っている。2年間通して担任は同じだそうだ。3年生までは、各学級（17～25人）に teacher assistantがいる。今年度のCurricurumでは、writingにポイントをおいている。Reading Programは教科書を使わず文学作品を読み、個別学習をしている。Math Programでは物から紙へ、次に教科書へという形で学習を進める。Social StudiesはScienceと統合した形で学習していく。いわゆる生活科のようなもの。Wild Watch Program（野外の環境教育の施設）では自然のままに近い形で木々が茂る広い敷地にベンチ、小川、小道、花壇、バードウォッチング、小動物ウォッチングの場所などがある。自然観察や詩（3年生）を作ったりする。World GlobalなProgramもあり、世界の他の地域の生徒とインターネットを通して情報交換をする。花壇ではKinder gardenの子供たちが蝶を観察したりする。小道はキャンパスの裏へ続き、P. Eのクラスで歩いたりする。P. Eに関して、今年度研究指定を受け、K－8の学校で初めてdemonstrationをするそうだ。そのためにも毎日、生徒全員が全員が30分P. Eをする。コーチが2名。大学からのインターンが2名いるそうだ。体育館ではちょうど、この近隣の学校の体育教師が研修をしていた。体育館の壁にこんな言葉があった。***I can　I will　I'll try*** 6年生はNASAへ旅行中。メディアセンターは、校舎の真ん中に位置し、Computer centerとLibraryを合わせたようなものである。教師用の雑誌を読んだり、生徒の作品を製本することができる。

校舎内を見た後、クラスに配属され、その授業を観察した。5年生の社会のクラス。ルイジアナ州のことを学習していた。4人くらいのグループを5つ作り、グループ活動をしていた。教科書を読み、メモを取る。後で分かったか確認する。このクラスのモットーは、***No one can everything, but everyone can do something. Never settle for less than your best.***

スケジュールは8：00～8：30 Morning Work，8：30～9：30 Math，9：30～10：00 PE，10：00～11：00 Activity/ Restroom，11：00～12：00 Science/Social Studies，12:00～12:30 Lunch，12:30～12:40 Outside，12：40～1：00 Mail Delivery/Writers' NB，1：00～

2：20 Lunguage Arts, 2：20～2：30 Pack for home, 2：30～2：45 Read aloud と書いてあった。

5年生の社会の授業終了後、メディアセンターで昼食。量の多さと甘さには、驚くものがあった。

昼食後、1時過ぎにSmoky Mountain High Schoolに到着。Kenneth Nicholson校長先生が校内の案内をしてくれる。1960年創立。生徒数929人。男女半数ずつ。うち、マイノリティといわれるアメリカンインディアンが8～9％、チェロキーインディアンが1～2％、残りは白人で90％。60％が自分の車で通学し、40％の生徒がスクールバスで通学する。教師は105人で、それぞれがIDカードを所持している。学校のシンボルマスコットは、Mastang（野生の馬）である。Cafeterria（食堂）では、クレジットカードの使用可。3回に分かれて生徒は昼食をとる。Career Information Centerでは、学校での履修コースについての説明とカウンセリングを行う。各学年に1つずつ部屋があり、カウンセラーは3人。履修の手引きがあり、学校の履修コースは基本的に1 Career, 2 Career college, 3 College, Universityの3つのコースがある。そのコースを途中で変えることはできるが、高2，3になると難しい。高校在学中に大学レベル(WCUやCommunity college)の単位を取得できる。AP といわれる。入学に関しては、入試はなく、校区内の学校から全員入学する。しかし、ある程度のレベルの能力（achievement test）がないと入学できないそうだ。落第もこれによる。続いて、コンピューター室、家庭科室。ここでは、生徒は家のデザインを考えていた。理科室。この教室には"This is Positive Thinking Area." と掲示されていた。美術室では、コンテや鉛筆、水彩絵の具などいろいろな手法で絵を描いていた。その中にヘッドホンをつけて音楽を聴きながら絵を描いている生徒がいた。理由を後で聞くと音楽を聴くことで、モーティベーションや創作力を高めるために、教師が許しているとのことだった。APクラスでは、10数名の生徒が大学1年生レベルの生物を学習していた。温度の差や姿勢が血液の循環、血圧や鼓動にどのように影響を与えるのかを研究していた。その評価方法は、10問テストとレポート提出（データと共に詳しく書く）によるそうだ。障害児（要支援）のクラス。科学のクラス。続いて、職業コースの見学。このコースには、保育、旅行関係、マーケティング、木工、金属加工、医療事務などある。金属加工のクラスでは、トレーラーを制作中で、できあがったら売るそうだ。工業クラスでは、時速160キロメートルも出る電気自動車を作っていた。木工のクラスでは、チェスの板を作品として仕上げていた。生徒たち自身で家を建てて、売ることもするそうだ。また、Work Force Buildingといわれる新しい校舎が建設中で、木工、溶接、農業に関してのクラスが行われる予定だそうだ。エレベーターもつくのだそうだ。

次にコンピューター室。ここの掲示に注目。"Let the choices you make today be choices you can live with Tomorrow." "For Success, Attitude is as important as Ability." "You never know much you can do until you try." 医療事務クラス。アメリカの歴史のクラス。ここではパワーポイントで授業がされていた。別の歴史のクラスはスマートボードとパワーポイントで授業を進めていた。ヘンダーソン先生は第一回目のGPSPで大阪で研修されたらしい。

自己紹介後、授業見学後のQ and Aが図書室で行われる。Health Educationでは、避妊、エイズ、麻薬、喫煙について各1時間ずつ行う。授業は90分1コマで一日4コマある。学期は、前期後期に分かれ、授業日数は90日。4つの授業が同じ順番でくり返される。教師は一日3つの授業を行い、一つは授業案などを考える時間に当てるそうだ。図書室には17000冊の蔵書と30台のコンピューターが設置されている。ワイヤレス20台購入予定だそうだ。8年生へのオリエンテーションは、履修の手引きを渡すと共に事前に登録を保護者と行うそうだ。在学中の生徒に対しては、高校での4年間の授業をどのように組み立てるか、あるいはコース変更がないか、学期の始めに確認する。障害児学級には、85人在籍し、writing, reading, memorizingを学習し、学習障害のものは、その教科だけをこの学級で受け、その他の教科は普通クラスで受ける。このQ and Aの後に、ある先生に、ポートフォリオ（国語）をみせてもらった。その生徒のは地下室のデザインだった。工作するときは、別の教室で作業を進める。一人ずつテーマはちがい、友達のファイルを見ることもできる。その評価に関しては、生徒のプレゼンテーションを二人の教師と地域の人3人が評価をする。この自分でテーマを決めて研究する間で、英国の文学を学習したり、ディベートをしたりするそうである。

ヘンダーソンビル地区で研修の森先生と私、担当の

近森先生はケーシー先生の運転するバンで移動。アッシュビルにあるUniversity of North Carolinaのヘインズ先生のイブニングクラスへ行く。彼は、比較教育学の先生らしい。9人のクラス。このクラスの生徒はみんな現役の教師である。5時から1時間くらい話をしたと思う。とにかく日本の教師は生徒指導、部活指導など24時間教師の仕事をしなくてはならないということに大変驚いていた。また、性教育についても少し触れた。アメリカの先生から聞かれた質問は、つぎのようなものであった。

1　一年間の授業日数について。
2　教師の一年間の勤務日数について。
3　部活動について。
4　生徒の態度について。日本の生徒の礼儀正しさについて。
5　学校での問題点について。
6　なぜ教師になったのか。
7　教師の採用数が少ないのはなぜか。
8　不登校について。卒業できるのか。
9　学校で精神安定剤を使うか。
10　アメリカへなぜ来たのか。何を学びたいか。
11　アメリカの先生に言っておきたいことは。
12　日本のHome Schoolingについて。
13　生徒が妊娠することはあるか。

その後、ケーシー先生の運転するバンでWaverly Innに到着。7時になっていた。物語の中から飛び出てきたようなすごくかわいいホテルだった。クリスティ先生とケーシー先生、近森先生と森先生の5人でFatzというレストランで夕食。やはり、量が多かった。その後8時からケーシー先生と近森先生と森先生の4人で今日のことについて1時間くらい話をし、9時からは3人で話を1時間くらいした。ノースカロライナの教室では、グループ活動がよく取り入れられており、教科の目的と教師が何を求めているかに寄って構成が変わってくるが、reporter, cordinator, traveller（前のグループがどんなことをしていたか、次のグループへ伝えていく係り）, recorder, questionerといった構成をとるらしい。生徒が自分の意見をよく言うことに関して、小さいときからそういうふうにしつけられる。しかし、7割くらいの生徒が、上手に自分の意見を人前で発表できるが、3割はそうでない時もあるそうだ。

3月27日（火）　Rugby Middle School訪問1日目（何もかも目新しい!）

7時過ぎにクリスティ先生の車で学校へ向かう。Innから学校のある場所までは10分くらい。7時半には学校に着く。街を抜け、木々の生い茂る道沿いの、林の切れ目に学校が現れる。新緑の芝生に映えるレンガ色の校舎。あー広いという印象。一般の自動車も沢山学校へ入ってくる。クリスティ先生に聞くと、生徒を送ってくる保護者の車なのだそうだ。なんて過保護なんだとその時は思ったが、よく聞くと交通事情と犯罪から子供を守るためなのだそうである。また学校で過ごす時以外の責任は保護者にあるという意識が徹底しているからだろう。生徒数807人。教職員83人。

Administration（事務室）へ寄ってから、体育館へ移動。廊下で会った生徒は礼儀正しく、先生のいうことをよく聞いているように思う。私のメールをくれているコーディに会えてうれしかった。もうすでに全校生徒が集まっており、日本からのゲストのために集会を開こうとしていた。ようこそ TAKAGI SENSEI という紙も貼られていた。Hank Utz 校長先生の話に始まり、ローラ先生から私の紹介があり、ついで私が自己紹介をした。続いてブラスバンド部による歓迎の演奏と演劇部による歌の披露があった。その後、ローラ先生からヘンダーソンビルのピンと校長先生から学校のロゴ入りのTシャツと早くアメリカの味に慣れるようにとチョコやキャンディのはいったリンゴの入れ物をプレゼントされた。後で聞いた話によると、ノースカロライナは、リンゴの産地で、リンゴは教師の象徴なのだそうだ。だから、その二つに共通した製品をあちらこちらの店で目にしたのだろうか。また、どの製品も教師を尊敬しているような言葉が書かれていた。リンゴと教師とそれを育てたノースカロライナ。私はここを訪問できたことに何か運命的なものを感じた。また、集会の後に一人の男子生徒が寄ってきて日本に興味がありますと話してくれた。うれしかった。

クリスティ先生は、校舎の見学をする前に担任しているクラスの生徒と連絡を取るため、各教室をまわり、プリント等を集める。

8時から10時頃まで、クリスティ先生と学校の施設を見てまわる。クリスティ先生の教室はトレーラーハウス。かなりの数のこういう教室があった。今ではそれが多くなりすぎて、新校舎建設の計画はないそうで

ある。トレーラーハウスの教室のイメージは悪そうだが、冷暖房完備、パソコンや教育機器など校舎内の教室とあまり変わりない。見学したのは、まずダンシングクラス。しかし、ステップを踏むにはトレーラーハウスの中では少々きつそうだった。Science,Workshop(木工), Math, Readingのクラスと見学していった。このReadingのクラスでは、学校の図書室から自分のレベルや興味にあったAR books (Accelerated Reader books) を選ぶ。この本はその番号を打ち込むと、コンピューターを使って、読解力や理解度を確認するための10問クイズができ、実際に生徒がそれを行っていた。障害児学級は各学年1クラスずつある。車椅子の生徒もいるので、エレベーターも設置されている。バリアフリーの精神だ。PE (体育) のクラスでは運動しやすい身軽な服装で同じ体操服で活動しない。Home Economic (家庭科) のクラスではどのようにお金を得るかということをテーマに学習していた。料理などもするらしい。Musicのクラスでは、本格的な演奏をしており、トランペットなどは生徒個人のものだそうだ。日本の公立中学校なら、ソプラノとアルトの縦笛くらいのものだが。Science のクラスでは、生徒はディスカッションしており、その教室にはこのような目標が書かれてあった。***You are resposible for your own actions. Your "I will" is more important than your IQ.*** 日本でもよく言われる言葉だ。しかしそれを教室に貼っているということは、日本よりもはるかに生徒に対して厳しいのかもしれない。ISS (In School Suspension) のクラスを見学した。担当は校長先生の奥さんである。行動が悪かったり、宿題をしなかったり、喫煙したり、けんかをしたりすると、このクラスで2～3日過ごすらしい。BED (Behavior Education Development) のクラスは、授業妨害をした時、ここへ来るらしい。髪の毛を青く染め、目つきも鋭い生徒がいた。ボディガードが常時控えている。OSS(Out of School Suspension) のクラスでは、5回ISSに行ったり、麻薬を使用したりした場合、このクラスへ来る。ここでも改善できない場合、この学校の替わりにTuxedo Middle Schoolへ行くらしい。Academy Gifted Class（いわゆる優秀クラス）も見学した。国語と数学で行う。クラス人数は少人数制で6人くらいまで。各学年では27人くらいいる。他の教科は他のみんなと授業を受ける。選抜方法は、テストの結果、教師の評価、生徒の作品、IQなど。

逆に、学習の進度が遅れがちな生徒に対しては、tutoring（放課後の補習のようなもの）がされている。教科によって曜日がちがう。スペイン出身の生徒が(その日は3人）いる。この生徒のために英語のクラスもあった。見学はしなかったが、授業の方法は私たちが第二外国語を指導する方法と似ているようだった。この校区に住む生徒がみんなこの学校へ入学してくる。障害を持った生徒も生徒指導が非常に必要な生徒も。それに対応していろいろなクラスやカリキュラムが用意されている。生徒の学ぶ権利をしっかり公平に守り、個人の才能を最大限伸ばせるよう教師が取り組んでいるし、そういう体制が整っていると思った。Adominstration（事務室）には、教師一人一人に連絡ボックスがある。印刷機、教師用の休憩室、校長室、副校長室、スクールカウンセラー室がある。常時、養護教諭がいないため、体調の良くない生徒はここへ来て保護者に連絡を取ってもらう。行動が良くない生徒もここへ来て数時間過ごすこともある。

10時頃から、クリスティ先生と昼食に出かける。ヘンダーソンビルの街のサンドイッチ屋さん。やはり味はいいが、ボリュームがある。食事中や移動中に学校の話題からはなれて、恋の話などしながら楽しいひとときを過ごす。

11時30分から12時までMs. Canipeの社会の授業。校舎内の教室。前もって日本の挨拶の仕方を先生が指導してくれていて、オーバーヘッドプロジェクトを使って、挨拶を日本語でしてくれた。ビデオ上映（約20分）の後、生徒から質問の時間をとる。

12時から1時までMr. Pierceの社会の授業。トレーラーハウスの教室。2コマある。ここでも日本から持っていったビデオを上映し、生徒からの質問に答える。ここで驚いたのはこのピアス先生は、70歳。彼の奥さんも60歳を越えているけれど現役で教師をしているらしい。ただし同じ学校ではない。徳島県なら、退職年齢は60歳。ノースカロライナでは、やめるといわなければ永遠教師ができるそうである。また、夫婦揃って同じ学校に勤めるのはOKなのだそうだ。ただいろいろ問題があったりするそうだ。福利厚生の話になるが、給料は年間の授業数による。長期の休みにはパートタイムの仕事をしてもいいそうだ。

1時から2時までMs. Canipeの社会の授業。日本から持っていったビデオを上映し、生徒からの質問に答

える。生徒たちは私の訪問までに日本語で挨拶の練習をしていたようでオーバーヘッドプロジェクトでその資料を映しだし、黒板の所には折り鶴の写真を掲示していた。私を歓迎しようとしてくれたことや、日本を理解しようとしてくれたことに感謝した。

2時から2時35分までMr. Pierceの社会の授業。日本から持っていったビデオを上映し、生徒からの質問に答える。

今日の生徒の質問事項や私の感想は、以下である。

(質問事項)

1　日本では学校は何歳で行き始めるのか。
2　8年生は一日いくつ授業があるのか。
3　学校は何時から何時までか。
4　秋祭りは大好きか。
5　好きなスポーツは何か。
6　自動車は日本のものと違うか。
7　学校は年間何日あるか。
8　制服を着るのか。
9　塾はあるか。
10　マイノリティはいるか。
11　日本へ行くのにビザはいるか。
12　土曜日は学校があるのか。
13　バレーボールは好きか。
14　鳴門は大きい街か。
15　教師になってからどれくらいたつのか。
16　フットボールやレスリングの部活はあるか。
17　学校の一日はどのようか。
18　コンピューターを使うか。
19　女子はみんな短いヘアースタイルか。
20　アメリカの大統領の選挙をどう思うか。
21　なぜ二中の生徒は部活動をしなければならないのか。
22　日本の生徒は北アメリカのことを勉強するか。
23　一つのクラスには何人生徒がいるのか。
24　人気のある音楽は。アメリカと同じなのか。
25　何を教えているのか。
26　問題行動をする生徒はいるか。
27　校長先生はいるのか。
28　校区はどれくらいか。
29　生徒は教科書を教室から教室へ持っていくのか。
30　バスケットボールの試合を他の学校とするのか。
31　マクドナルドで箸は使うか。
32　生徒は何人いるか。
33　生徒は自分の授業を選ぶか。
34　生徒は昼食にお弁当を持ってくるか。
35　一週間に何日学校があるか。

生徒は礼儀正しくしかもすごく明るい。日本に興味を持っていて、自分のクラスにも高木に来てほしいという生徒がいたのはうれしかった。ビデオの放映で一番うけたのは、剣道部の面うちの練習をしている風景。みんな大笑い。弓道に対しては、Cool! と感心した様子だった。生徒の服装が私服であるので年齢より上に見える生徒もいた。そのことについてローラ先生に聞くと、化粧やピアスはかまわないが、胸のところが開きすぎていたり、背中の見えるような服を着ている場合は、保護者に電話して着替えさせているらしい。自由服というのは厳格にするのは、難しい時があるそうだ。また、経済的に裕福でない家庭の子供は、衣服が清潔でないこともあるので、友達との関係がうまくいかないこともあるそうだ。トレーラーハウスから通学している生徒もいる。教師が授業中水やジュースを飲んでもいいようである。授業中ミネラルウォーターを出されたが、授業中に飲むという行為に抵抗があって飲めなかった。学校に要らない物を持ってこないようにとか、授業中はものを食べたらいけないと指導している日本の教室では考えられないことである。それだけ教室は神聖な場所と考えている日本の教師がいるのか、あるいは教師はそういう行為をしても当然であって、生徒から一目おかれているアメリカの教師がいるのか。教室には、あまり窓が多くないと思った。空調設備が整っているからだろう。夏も冬も日本の子供ははるかに過酷な環境の中で学習していることになる。これは、基本にはノースカロライナでの学習する権利が保障されていることと、施設を整備することへの基本的な考え方や行政の経済的な状況の違いもあるのだろうと思う。授業中、水を生徒の前で飲むということも含めて、日本では耐えるとか我慢するというところが美徳とされている文化があることも関係があるのだろうか。

生徒は学校が終わるとスクールバスや保護者の自動車で家へ帰る。午後3時頃には部活動をする生徒以外は教室にだれもいなくなる。日本の学校より朝早く始まり、授業の間の休み時間もほとんどない勤務は非常に厳しいと思ったが、3時には教師も自由になるので、

これもいいかなと思った。

放課後美術部のメンバーと習字をする。私のデモンストレーションの後、生徒はみんな美術という字を書いてみた。カタカナで書かれた自分の名前を持ってすごくうれしそうな生徒の表情が印象的だった。その後クリスティ先生とショッピングに出かける。夕食はローラ先生、クリスティ先生の妹さんとそのフィアンセ、クリスティ先生の親友、近森先生、森先生と一緒にCyprus Cellakというところで食べた。夕食後反省会をする。それぞれ訪問した学校でどのように歓迎され、どのように授業を進めたか、話した。

3月28日（水） Rugby Middle School 訪問2日目（かわいい生徒たち、日本と同じだ。）

7時過ぎにクリスティ先生の車で学校へ向かう。7時半のパーカー先生のHealth Clubに参加する。この日がこのクラブの初めの日だったらしく、今後の活動内容を説明していた。彼は今年の6月にＧＰＳＰのメンバーとして日本に来ることになっており、ダイエットや薬、栄養、健康的な生活、環境について日米の比較を活動案として話していた。

パーカー先生の教室のルールは次のようなものが書かれてあった。これは、日本の教室にも当てはまる。

Class Rules

1 Come to class prepared and on time

2 Remain seated until dismissed

3 Respect yourself, each other, and your environment

4 Follow the Code of Conduct

1時間目、ローラ先生の6年生の美術のクラス。校舎内の教室。8時10分～8時55分。二中の学校生活や学校周辺の風景と日本の年中行事を撮ったビデオを放映し、説明を加えていく。また、日本の文化についての写真や小中学生に人気のある雑誌やマンガ、日本の新聞や広告を見せる。その後質疑応答の時間をとる。

2時間目、ローラ先生の7年生の美術のクラス。9時15分から10時。ローラ先生が出席をとった後、この学年は昨日の他の教科でビデオを視聴していたため、習字のデモンストレーションを行う。生徒たちは自分の名前を日本語で書いてほしがっていた。自分の名前を手渡されると、生徒たちは表記方法の違いに感動していた。

3時間目、ローラ先生の7年生の美術のクラス。10時5分から10時50分。この生徒たちはすでにビデオのほとんどを観ていたので、日本の年中行事の部分だけ観た。桃の節句の部分では、私が早く片づけないと婚期がおそくなると言われていると説明した。こんな言い伝えは根拠のないことが多いが、アメリカにも同じような言い伝えがあるそうだ。梯子の下を通るとだめ。鏡が割れると50年良くないことがおこる。黒猫を見ると良くない。靴の中に6ペンスいれると結婚できる。表向きの1ペニーを拾うとラッキーで、裏だとだめなど。

昼食とplanningの時間、10時50分から12時。学校のカフェテリアへ行く。2ドル50セント払えばその日の献立を食べられる。この日はビスケット、スパゲッティ、サラダ、ジュース、果物（リンゴ、洋なしから選ぶ。しかし、この果物は店頭に並んでいる時と同じようにシールが貼られており、洗った形跡がない。みんなあまり気にしないで食べている。それともシールをつけたまま洗っているのだろうか。不思議だ。）学年ごとに食べる順番（7年生、8年生、6年生の順に）と時間と席が決まっており、それはそれはわいわいがやがや楽しい雰囲気で食事をしている。また、二中の生徒と文通をしているNoah Carterを見つけ、声をかけるとびっくりしていたが、フルネームで呼ばれ、うれしそうだった。先日のMr. Pierceが自分の他のクラスにも来てほしいと言うことで、（予定外に）ローラ先生に交渉にやって来た。彼女の授業の間に少しだけ行くことになる。彼は日本に来たこともあり、日本に興味がある。初めて会って握手したときも自分の手の中に石ころを入れていた。話を聞くと東京帝国ホテルの建て替えの時に転がっていた石を拾ってきたのだという。おもしろい出会いだった。そんな彼が私に "This is Japan." ということを話してほしいという。そんな突然言われたってという感じだが、制服のことを話した。日本の制服事情も変わってきているということ、この学校の生徒は自分の個性や考えを自由服で表すことができるからいいということなど。

昼食後、事務室へ寄る。職員トイレの前に車輪付きの黒い大きなゴミ入れがある。その中にはジャンバーやカバンが入れられている。日ごとにその量は増えている。その向こうはコンピューター室があるのでそこへ行く人が入れているのだろうと思っていたが、確かめるとLost and Foundといわれる落とし物なのだそう

だ。日本で落とし物といえば、大きくてもせいぜい笛や傘くらいなもので、あんなに沢山の服の落とし物を見たことがない。びっくりした。いくら子供でも外へ出て寒かったら、服のないことなどすぐに気づくはずだろうに。その日の反省会で分かったことだが、必要なくなったものをそういった形で捨てているとか物をあまり大切にしない子供がいるということだった。

アッズ校長先生の放送で避難訓練が始まる。日本と同じだ。

4時間目、ローラ先生の8年生の美術のクラス。12時から12時50分。出席をとる。遅れたら、生徒自身がシートに名前を書いている。これは、Tardy Sheetといわれ、居残りになって、掃除をするか宿題を科せられるそうだ。またこのシートは家庭へお知らせとして渡される。その上にPassといわれる4色のカードもある。これは授業中に教室から出るための許可証のようなもの。Restroom pass, Office pass, Hall pass, Telephone passがある。授業内容はビデオや雑誌、写真を見て質疑応答と習字のデモンストレーション（生徒が希望した日本語や生徒の名前を書く）と生徒が習字を体験する。また、二中の保健室の様子をビデオで見ているときに分かったことだが、ラグビーミドルスクールには、Infirmery といわれる保健室のようなものはなく、School nurseが週1回くるそうだ。高校には、常時1人いるそうだ。

5時間目、ローラ先生の8年生の美術のクラス。12時55分から1時40分。出席をとる。授業の流れは、4時間目とほぼ同じ。

6時間目、ローラ先生の6年生の美術のクラス。2時から2時45分。出席をとる。授業の流れは、4時間目とほぼ同じ。習字をすると、あるいは生徒の名前をカタカナで書いたりすると "Cool!"（すごーい。）とか（自分の名前は日本語で書くとこんなに短いんだ。）とか、いろいろな感想が聞けた。また、生徒と触れあう中で今流行っている言葉も知ることができた。テレビのコマーシャルで "What's up?" というのがあり、日本語の山葵と発音が似ているのでそこに笑いがあるらしい。

今日の授業での質問事項は以下の通りである。

1　500円は何ドルか。
2　フットボールのクラブはあるか。
3　（本の値段の300円を見て）この¥300は何か。
4　アメリカ人が日本へ移民したら、どんな職業につくか。どんな学校へ行くのか。
5　日本では結婚式はどのようにするのか。
6　日本のトイレの使い方はどうなのか。
7　日本人と中国人はどのように違うのか。
8　学校が終わるのは何時か。
9　雛祭りの目的は何か。
10　ローラーブレードはあるか。

6時間目終了後、Dismissal といわれるバス下校の指導に行く。6時間目の教科担当の教師がそれをするらしい。また、バスの運転手が足りないときは大型の免許を持っている教師や教頭先生までもがスクールバスを運転するらしい。また、日本では30代で管理職に就くことはまずないだろうが、女性の教頭先生は35歳くらいですごく若い。いろいろな面で困ることはないかとローラ先生に聞くとないと答えた。管理職が自分より年上だろうが年下だろうがあまり気にしていないし、教頭や校長になる人はそれなりの特別な学習をし、人を管理することの能力のある人だからと言っていた。教員を経験して管理職に就く人もいれば、全く経験のない人がなったりするそうだ。学校教育と学校経営は別のものという考え方があるのだろうか。

その後、West Hendersonville High School（この高校へラグビーミドルスクールの生徒は全員進学するらしい。）での陸上大会を観に行く。ローラ先生は高跳びの審判をしていた。この競技大会は、ヘンダーソンビル郡内の3つのミドルスクール（Rugby Middle School, Hendersonville Middle School, Apple Valley Middle School）の生徒が参加し、100メートル走、ハードル、高跳び、幅跳び、中距離、長距離といった競技があり、学校あるいは男女対抗で行われる。3月は陸上のオフシーズンで、日本の夏の競技種目だというイメージがあったので、競技を観て何か変な感じがした。アッズ校長先生もジャージ姿で応援していた。また、普通の日の放課後に開催されているのも日本と違っていると思った。

教室でも陸上部の生徒は、ユニホームをTシャツの上に着ていた。日本では考えられないことだが、そうすることで志気を高めていたのかもしれない。試合中の同じ学校の生徒に対する励まし方は、日本と同じだと思った。"Keep going." "Go go." "Come on." "You can do it." "Good challenge." また、ローラ先生が審

判を終わった後、生徒を使って白血病治療のための募金活動を行っていた。このような募金活動はよくあることなのだそうだ。日本では街頭の募金と聞くと騙されるという胡散臭いものを感じたり、他人のことなどどうでもいいと考える自己中心的な人が多いのではないかと思ったりする。しかし、ここノースカロライナでは（ローラ先生がそうなのかもしれない)、他人のことを考えることのできる心の余裕を持ってる人が多いのではないか、またそれを当たり前のこととして受け入れる社会があるのではないかと思った。

夕食はHikeというところでみんなと一緒(近森先生、森先生、ローラ先生、クリスティ先生、ピアス先生)にとる。夕食後、反省会。ウェバリーインで、ケーシー先生も交えて4人でする。ケーシー先生がまず、日本人がこの地区へ来ることは大変珍しいことだし、学校にとっては特別なことであるとおっしゃった。それだけ歓迎されているということだ。自家用車での学校への送迎については、人家が少なく、安全のために保護者がしているとのこと。日本と同じで子供の様子は昔と変わってきているらしい。昔は悪いことだと分かって悪いことをしたが、今は違う。高校入試について、点数によって行く高校が違うのではなく、ある点数以上であれば、みんな入学できる。だから、生徒、保護者、教師も5教科だけに力をおかず、5教科の先生も他教科の先生も同じように教師としての誇りを持ち、頑張っている。アメリカでは、性教育などはオープンにされていないところがあり、メディアだけが先走りしている。地域も保護者も性について隠す傾向がある。子供は何が普通なのか分からなくなってきている。離婚率は50%ある。その中には、子供への影響はあるが、成長とともに乗り越えていくという考え方もある。日本でも離婚率は増えていると思う。自立した考えを持つことができる子供に育つかもしれない。しかしやはり子供の幸せは、できれば仲のいい両親の愛から裏打ちされるものであってほしい。ある意味で子供の心の健康が保障されるのではないだろうか。

3月29日（木） Rugby Middle School 訪問3日目（おもしろい部活動）

7時15分頃、クリスティ先生の車で学校へ向かう。ローラ先生の案内で、朝7時30分から8時頃まで活動をしている部活動の見学に行く。FCA (Fellowship of Cristian Athelete) キリスト教徒の生徒たちの集会。日本では宗教的な部活動はあまりないと思うので私にとっては、不思議な感じがした。この活動はカフェテリアで行われていた。JROTC(Junior Reserved Officer Training Course)陸海空軍への希望者を対象に将来のコースについて指導していた。図書室で行っていた。指導の先生はアーミー服を着ており、かつて軍の関係者だったらしい。これも、二中にはない部だったので、驚いた。また、中学生の段階で将来のコースとして軍へ進む手だてを講じているというのは、自分の夢に向かって今何をなすべきか、自分の将来に責任を持つということなどを生徒自身に明確にする意味ではすばらしいと思った。この学校を訪問した日から気になっていたことだが、事務室や廊下に、教育的な言葉が書かれたきれいな風景の写真が額に入れられ飾られている。ローラ先生に聞くと、これはアッズ校長先生が選んだものだそうだ。例えば、GOALS: First ask yourself, what you want ; then you have to do it. タイトルとして他にもCHRACTER, PERSERERANCEなどたくさんあって写しきれなかった。また正面玄関を入ったところのマットは、スクールマスコットのレイダースが刺繍され、階段をあがって事務室の正面には、こういう風に書かれた幕が掛かっていた。3R'S RESPECT YOURSELF,RESPECT OTHERS,RESPECT YOUR SCHOOL また、あらゆる所に "EXPERIENCE THE EXCELLENCE" というスクールモットーが書かれたり、貼られていたりした。

1時間目（6年生の美術のクラス、8時10分から8時55分）と2時間目（7年生の美術のクラス、9時15分から10時）のローラ先生の授業は、昨日と同じように授業をすすめた。また、生徒の名前をカタカナで書いた。

3時間目、ローラ先生の7年生の美術のクラス。10時から10時45分。この授業を小野先生と世羅先生が見に来てくださった。授業の流れは1，2時間目と同じ。生徒の名前を漢字で書く。その後生徒全員が友という字を書いてみた。後のアンケートに日本のイメージは?の項目でこの字を書いている生徒が数名いた。やはり体験するのはインパクトがあるようだ。

昼食はカフェテリア、昨日のメニューとさほど変わらず、スパゲティがラザニアに、生サラダがボイルしたブロッコリーにという感じ。ただ、ケチャップやマ

スタードの入れ物が日本のものとは違い、一見ジュースやビールのサーバーのように、棒を引き下ろす形になっていた。休み時間に質問したのは生徒の家庭の経済状況についてである。ローラ先生によると、この地域ではアッパーミドルあるいはミドルだと思うが、貧しい家庭の子供もいる。数は少ない。この子供たちはバスで登下校したり、クリスマスに先生たちからプレゼントを集めて渡されることがあるそうだ。

4時間目（8年生の美術のクラス、12時から12時45分)、5時間目（8年生の美術のクラス、12時55分から1時40分)、6時間目（6年生の美術のクラス、2時から2時45分)も午前中とほぼ同じ流れで授業を進めた。

今日の授業で生徒から聞かれた質問は、つぎのようなことである。

1　フットボールのチームはあるか。その練習試合はあるか。
2　生徒は問題を起こしたりするか。
3　修学旅行はあるのか。
4　ドラッグの問題が起こったりするか。

放課後事務室へ戻ると子供を迎えに来ている保護者に会う。子供が私の訪問で経験したことを楽しそうに必死になって家で話すそうである。子供にとってもこの経験は本当によかったと話してくれた。思い返すと、昨年からメール交換している二中の生徒にラグビーの生徒の母親から日本のことについて沢山メールが届いたということもあった。このように異文化を知った生徒の感動が保護者に伝わり、学校のみではできないより広い文化交流ができたのではないだろうか。夕食前にローラ先生がアッシュビルのモール街へ連れて行ってくれる。また、教師専門の本屋さんへも行った。日本の授業で使えそうな、なかなかおもしろいものが見つかった。夕食はBarleyというところで、キャラウィーハイスクールのビバリー先生と塩田先生とローラとダンの5人でピザを食べた。おいしかった。

今日の感想、制服を着ているか、そうでないか、少し大人っぽく見えるかどうかだけで子供はみんな同じ。この生徒は、日本の自分のクラスで言えば、～さんかなとか。コマーシャルに影響されてそれを連発する子。少し斜に構えてすましている子、何に対しても反応のいい子、おとなしめで、後ろに控えている子等。生徒と目を合わせてにっこりするだけで心は通じ合う。

3月30日（金）　Rugby Middle School 訪問4日目（今日で最終日。はやかった。）

7時15分頃、クリスティ先生の車で学校へ向かう。事務室へ行くと保護者らしき人が印刷機の前にいて、紙を見ながら生徒のプリントの印刷をしている。「私は保護者でこうやってコピーしてるの。」と当たり前のように言われた。クリスティ先生に聞くとやはり保護者の方で、ボランティアなのだそうである。日本では、学校行事の時に保護者の協力はあるが（この学校ではCrafts Fairというものがあるらしい)、学習用のプリントを保護者がコピーしている姿や何かを修理したりすることはない。日本より学校がオープンにされているということかもしれない、保護者と学校が密接に関わって子供の教育に関してギブアンドテイクの精神で、保護者のボランティアが得られやすいということの現れなのかもしれない。また要保護の生徒について聞くと、該当生徒は政府が決める。朝ご飯（学校のカフェテリアで食べる）や昼ご飯の費用要らないそうだ。他の生徒とのトラブルは少しある。今日は、見学したい授業の希望を伝えていたので、計画を変更してくれた。

1時間目（Academy Advanced Class, Mrs. Carterの国語のクラス、8年生、25人）カーター先生が用事のため、レイモンズ先生に変わる。授業の前には、校長先生の合図で右手を左胸の上にあて、国旗に向かって誓約の言葉を言う。全部の授業でしているわけではないそうだ。

このクラスの生徒に授業の前に聞いたのだが、通常クラスの友達にこのクラスに来ることに対して悪く言われることはないそうだ。勉強ができるできないも単なる個性だから。このクラスへ来ることは、すばらしいことだと思うし親も誇りに思っているそうだ。このクラスでは、読みとりした後で、Q and Aをしていた。生徒は足を組んだり、姿勢は正しくないが、答えるところでは挙手をし、発表もよくする。しかし全く手を挙げない生徒もいた。後で聞いた話によると、このクラスにもレベルに差はある。このクラスの掲示には、こういう物があった。Treat your brain to a book. You are responsible for you. Reading makes life a lot easier.

2時間目、Autistic（自閉症）の生徒のクラスへ見学に行く。8時45分～9時30分。生徒は5人。教師は2名。このヘンダーソンビル郡内には日本の特殊諸学

校といったものはない。この地域に住む子供はみんなこのミドルスクールへ入学する。また、このクラスへ他のクラスの生徒が遊びに来ることがあるそうだ。障害を持つ子供も健康な子供も同じ場所で学習することを通してお互いに学びあえることがあると思う。スケジュールは生徒一人一人の障害の程度に応じて一日の計画が立てられている。しかし、時によっては子供の状況で柔軟に変えていく。評価に関してはポートフォリオでされており、Communication,Career Vocational, Community, Personal/Home Management の4つの領域で構成されていた。教室内は、一人一人のスペースが確保されており、快適に過ごせるように考えられている。また、調理のスペースや集中力を保つための設備（ヘッドホンで音楽を聴く、物語を聞くなど）が充実している。生徒一人一人がとても大切にされているなあと思った。

9時30分から10時までアッズ校長先生とお話しする機会をとってくれた。以下校長先生に質問したことである。教育理念について。学校のアウトラインについて。教育目標について。優秀クラスについて。BED, ISS, OSSについて。レベルの違う生徒が数学や国語の同じクラスで授業を受けることは難しい。よりよく、自分の能力を伸ばすため、この方法をとっている。生徒の評価について。通信簿は9週間ごと、1年に4回コンピューターで出される。ただし4週と半分で中間の通信簿も出される。コメントは、Great Student や Student needs to study といったものがコンピューターで書かれる。態度については保護者に直接教師が話す。教師の評価について。毎年3回あるいは何年教えているかによって1回の授業観察を校長先生、教頭先生が行う。この後教師用ハンドブックのコピーと生徒用ハンドブック、教師の評価の時に使う用紙をいただいた。

10時から10時50分までMs. SinkのCookingクラスでお好み焼きを生徒と一緒に作る。シンク先生と前の日に必要な道具や材料について話し合っておいたので、とてもスムーズに調理できた。粉やソースなどは日本から持って行っていたので野菜や肉、エビなど生ものを買ってもらった。日本茶やお菓子の袋さえも生徒は争奪合戦をするほど日本のものに興味をもってくれた。ローラ先生やクリスティ先生も来て一緒に試食会となったが、生徒たちもおいしいと大好評だった。家でも作ってみたいのでレシピを書いてほしいという生徒も出てきた。また、新聞社の取材もあったので大盛況だった。私にとっては懐かしい味のお好み焼きが昼食だった。

4時間目クリスティ先生のLanguage Artのクラス。7年生。60分。『クリちゃん』の「もうちょっとだよ」と「これならくらいよ」のセリフを考える。後者の細長いものが花火だと分かったのは4人だった。その後、4コママンガを考え、絵も描く。名前を日本語で書いてほしいと全員の生徒がいうので筆ペンで書いた。やはりみんな感激した。

5時間目クリスティ先生のLanguage Artのクラス。7年生。60分。授業の内容は4時間目と同じ。花火と分かった生徒は8人だった。

6時間目クリスティ先生のLanguage Artのクラス。7年生。60分。『クリちゃん』のセリフを考えると時間配分がうまくいかなかったので、4コママンガだけ挑戦させる。結構楽しそうに書いていた。生徒の名前をカタカナで書いてプレゼントした。また、クリスティ先生が二中の生徒作品のコピーを交流している生徒に渡してくれた。

この4コママンガについては別のレポートで詳しく書きたい。また、クリスティ先生、ローラ先生、ピアス先生のクラスで、私の授業を受けた感想や私が生徒に聞きたかったアンケートを書かせてくれた。その内容や結果についても別のレポートで書きたい。

4時頃ホームステイ先のローラ先生の家へ向かう。学校から30分くらいの隣町アッシュビルの小高い山の中。沢山の木々に囲まれ、空気がおいしい。ログハウス風のかわいい家。ジャックという黒犬がしっぽを振って出迎えてくれた。部屋に案内されると私のために用意してくれたベットにプレゼントが置いてある。開けてみると、29日（木）にローラ先生と放課後に寄ったモール街で売っていたリンゴのブローチだった。私は買おうかと迷ったがやめた。それがここにあるということとローラが私のその様子を見ていてそれをプレゼントとして選んでくれたことににびっくりし、感謝した。ローラはずっと私と一緒だったはずなのにと思ってたずねるとダンがわざわざ買いに寄ってくれたらしい。夕食は森先生とそのホストファミリーのヤーボロー夫妻と一緒にローラの手作りの夕食。

夕食後、白血病治療のチャリティコンサートへロー

ラと出かけた。どのグループもエネルギッシュだった。

3月31日（土） ホームステイ。ベルトモア エステイトを観光。

ローラとダンはランニングのレースに出るので、朝、森先生のホストファミリーのヤーボロー夫妻の家で朝食をいただく。（オムレツ、コーヒー、カップケーキ、フルーツ）親日家の夫妻なので私にとって暖かい雰囲気がした。森先生にとってもそうであったにちがいない。この4人で15分くらいの所にある有名なベルトモアエステイトを観光。本来入場料は32ドルだが、ヒューバートが会員なので入場料が28ドルだった。ヨーロッパのお城みたいな美しい建物だった。昼食はローラとダンも来て一緒にメキシコ料理を食べた。夕食の材料を買いにスーパーや中国料理のスーパーへ寄った。中国か韓国か日本のものなのかよく分からないほどいろいろな物が置いてあったが、鳴門の鳴門巻きを発見したのには感動した。そばやうどんのメニューも考えていたのでちょうど良かった。その他にダンから頼まれていた巻きずしに森先生と一緒に挑戦。なかなかおいしくできたし、みんなに喜んでもらえてうれしかった。ローラが言っていたことだが、アメリカの生徒の言葉が昔に比べ、乱れてきているそうだ。日本でも同じである。

ヤーボロー夫妻と車の中で一緒に『故郷へ帰りたい』を歌ったこと、お土産を買うのに長い時間つきあってくれたこと、クリスティやローラとの買い物の時間、車で移動中の時間、学校や結婚や子供の話などいろいろしたこと、そんな中で、お互いに心を開いて話ができ、本当に大切に思える友達が沢山できたことがこのプログラムの私の個人的な何よりの収穫であったと思う。

4月1日（日） ホームステイ。Looking Glass Fallを見に行く。州都ラレーへ。

夏時間なので1時間時計を早送りする。朝ご飯（パンケーキ、ジュース、果物）を食べてから、ローラとダン、ヒューバートとリー、森先生の6人で滝を見に行く。この辺りには300ほどの滝があるそうだ。昼食はBBQ（バーベキュー）のおいしい店に寄るが時間が無くテイクアウトにする。ラグビーミドルスクールの生徒で、このレストランで手伝いをしているニック・スイージーと家族と一緒に来ていたリリアン・ランブレシェに会う。学校以外で会えてうれしかった。2時にQuality InnのパーキングでWCUからのバンに乗って、州都のラレーへ向かう。鳴門地区の他の参加者とも久しぶりに会えて懐かしかった。バンの中では次の日のサマリーコンフェランスに向けて発表を考えた。しかし、慢性的な睡眠不足と自動車の揺れが眠気を誘った。5時間ほどかかってラレーのBrown Stone Hotelに到着。夕食を他地区の人たちみんなで食べる。ローラもサマリーコンフェランスに参加するということで、一緒に夕食を食べた。この夕食の後、徹夜で次の日の準備をした。結構きつかった。

4月2日（月） サマリーコンフェランス in ラレー

9時から9時20分までスペンス先生の歓迎の挨拶に始まり、米川先生からのスピーチ、日本側の各地区の2001年度参加者の紹介が森田先生、朝倉先生、世羅先生からされた。続いて、スペンス先生からのスピーチと、今回のコンフェランスに参加しているアメリカの先生方の紹介が、レッドフォード先生とウォーカー先生とマクギンティ先生からされた。

9時20分から10時まで広島地区の先生方からの報告があった。ECUグループ。パワーポイントを使ってまとめていた。

10時15分から10時55分まで大阪地区の先生方からの報告があった。UNC-W グループ。模造紙に紙の皿と色紙を張り付けてまとめていた。日本語の説明の後、英訳されていた。発表は、次の4項目でまとめられていた。

1 stuff, 2 Curriculum(Basic,International Oriented Education), 3 Information Literacy (Media Center, Information Technology), 4 Scool, Parents and Community (Accoumtability, Volunteer)

10時55分から11時35分まで私たち鳴門地区の報告。WCU グループ。パワーポイントとその英訳（ポイントになる言葉だけ）の模造紙を提示した。日本語で説明した後、英訳を付け足すという形を取った。タイトルは『アメリカの教育における公平さの追求』である。6つの項目を各担当の先生が説明していった。1 はじめに（アメリカの国民性） ①すべてに対してfair, ②子供を大事にする, ③教育を受ける権利を保障している 2 育てたい（求められている）子供像 ①小学校

において、中学校において、高校において，②生徒の実像　3 ノースカロライナの教育について　①方向性，②多様性　4 私たちが学んだこと　5 私たちが疑問に思うことや提案　6 終わりに

11時35分から12時までQ and A。その後12時から2時まで全員で食事。ゲストスピーカーからスピーチがあった。その時、協定書にサインアップした学校があった。

昼食後1時30分からLaVeta Wetherrington先生から "Learning About Japan-Leaning about NC/US" という話があった。生徒に日本について理解を深めるために、言葉、ハローレター、食べ物、インターネット、芸術の5つのカテゴリーから進めていったそうだ。活動としては日本の祭日、着物の着方、漢字（1から10までの）を学習したり、日本の食べ物を調理したり、クラブ（第一木曜日）で歌舞伎のマスクづくりをしたそうだ。Anne Loughlin先生から "Learning Together /Cooperative Learning" というタイトルで学校で取り組んだセレブレイトジャパン・セレブライトアメリカという行事について説明があった。Darryl Rogers先生からは "Communication and Technology" という発表があり、日本の生徒にアメリカ側の学校を理解してもらうためのビデオづくりについてだった。Mary Beth Corbin先生からは "Webpage and Listservs" という中から、日本に関するホームページの紹介があった。Dr. Carolyn Ledford先生からは "Standarizing the Process" というタイトルで、カリキュラムの改革と生徒への動機付け、多文化教育とインターネットとの関連について話があった。3時過ぎにはこのコンフェランスも終了。

夕方6時過ぎ、州議会見学。赤の絨毯と金のシャンデリアの色が対照的だった。

4月3日（火）　エクスプロリススクール、エクスプロリスミュージアム、科学博物館、州教育委員会見学

朝7時15分、小野先生の案内でホテルの近くのベーグルやさんへ行く。ここではパンの種類と中に挟むクリームや具を選ぶようになっていた。ブルーに塗られたベーグルには参った。合成着色料や砂糖などあまり健康に気をつかってはいないのではないかと思うようなものがアメリカ（日本以外の国）にはたくさんあるのではないか。しかしシナモン味のドーナッツ風の味のものがおいしかった。甘さもちょうどよかった。8時30分からExploris SchoolとExploris Musiumを見学。生徒たちが案内してくれた。この学校の生徒であることをどう思うかと聞くと、自分の研究したいことができるから好きだとの返答があった。自分でテーマを決め、研究し、時にはどのように進んでいるか学年ごとにチェックしたりしていた。レポートや画用紙にまとめ、掲示もしていた。カラフルで非常に分かりやすく丁寧に仕上げていた。また、ポートフォリオも見せてもらったが、すばらしいものだった。

Exploris Musiumでは水の質やアンネ・フランクの展示もあり、いろいろな分野のことを工夫して展示されていた。子供たちも授業中にここへ来て学習することもあるそうだ。

昼食はイタリアンレストランでスパゲティを食べた。その後、科学博物館と州教育委員会へ行く。後者ではノースカロライナの教育に関する資料や英語の授業に使えそうな本を購入した。その後一度ホテルへもどり、休憩。昨日の寝不足のため寝入ってしまった。夕方4時20分にホテルを出てモール街でショッピング一日いてもあきないくらい非常に大きなモール街だった。7時30分に歓喜 (KANKI) というところで3地区の先生方とウォルター先生、ドン先生と食事。パフォーマンス付きの鉄板焼きの店。おいしかった。夜、ドン先生の部屋に招かれ、みんなと出かけ少しお話してから、自分の部屋に戻る。荷物の整理をして就寝。

4月4日（水）　空路で関空へ。

朝6時半に、スーツケースホテルからバンでラレーの空港へ送る。荷物係の川上先生にお世話になった。7時30分に空港へ向けてホテルを出発。スーツケースを預けると70ポンド以上あったので、箱をもらいロビーで荷物の整理をした。買いたい本が沢山あったので仕方なかったが、少し恥ずかしかった。搭乗するまでの時間に売店でベーグルパンとオレンジジュースを買った。ベーグルの味にはまってしまった私である。9時5分ノースウェスト1729便デトロイトへ向けて離陸。デトロイトメトロポリタン空港に10時45分に到着。今回は無事スーツケースがターンテーブルに現れ、ほっと胸をなで下ろした。最後のショッピングと懐かしい日本の味『立ち食いそば』を食べた。米川先生のお薦めの味はなかなかおいしかった。ここで、かわいい1歳半位の女の子が母親と一緒にそばを食べていた。そ

ういえば私の娘は元気かと、我が家も懐かしくなってしまった。

12時55分発といいながら、1時20分、ノースウエスト69便はデトロイトから、関西交際空港へ向け離陸。約14時間かかって関空に到着。行くときより時間が短く感じたのは、私が飛行機の中でよく眠っていたからかもしれない。途中日付変更線を越えて13時間進む。プラスマイナスすれば同じだが、少し損した気分になった。

4月5日（木） 無事帰宅。楽しい貴重な二週間。

日本時間の午後3時40分の関空に到着。5時過ぎのリムジンバスに乗り、鳴門に8時頃、到着。家へ帰ると、娘が『えっ? 誰?』みたいな顔をして迎えてくれた。子供に「ママです。」と自己紹介して自分がだれか確認しなければならなっかたのは、少し寂しい気もした。息子は恥ずかしそうにボードに『アメリカの生活はどうでしたか。』と書いて、出てきた。それぞれいろいろな表現で2週間ぶりの私に挨拶をしてくれた。長いようで本当に短く感じられた二週間。ＧＰＳＰに参加させていただけたことは私にとって大変貴重な経験になった。